

自ら問題意識をもって追究し、関わり合いを通して、 深く考える子の育成

— 3年社会「たくさんのお客さんが集まる
スーパーマーケットのヒミツを調べたい」の実践を通して—

刈谷市立住吉小学校 教諭 谷村 公基

<研究の概要>

本研究では、児童の実態を踏まえて、スーパーマーケットを教材化し、販売の仕事を学習する児童の変容を追った。児童が自ら問題意識をもって追究し、社会的事象を深く考えられるように、思考の流れに沿って考えられる資料の提示、子ども同士で話し合う場の設定、販売の仕事に携わる人から学ぶ場、構造的な板書と活用の在り方を考え、実践に取り組んだ。

<検索用キーワード>

販売の仕事 問題意識 社会的事象 深く考え 多面的・多角的

1 主題設定の理由

1学期に実践した「わたしのまちみんなのまち」では、副読本に記載されている資料から情報を読み取り、「刈谷市がどんな市なのか」について話し合った。子どもたちは、地図や写真から刈谷市の様子について読み取り、市の特徴を理解した。以下の【資料1】は、土地の高さや広がりについて学習した時間の児童Aの振り返りである。

田とかじゅ園の水は工ふうして水をくみあげているアイデアがすごいと思いました。今日の先生の話で、田はたいらじゃないとつukれないことが分かりました。

【資料1】「土地の高さや広がり」の時間の児童Aの振り返り

「今日の先生の話で、田はたいらじゃないとつukれないことが分かりました」という記述に注目すると、教師の提示した事象や資料に対して受け身の姿であり、自ら学ぼうとする姿にまで達していないことが分かった。

自ら学ぼうとする姿に達するには、子どもたち自身が社会的事象に対して問題意識をもって追究し、他者と関わり合うことで、事象について深く考えさせることが必要であると考えた。そこで、「自ら問題意識をもって追究し、関わり合いを通して、深く考える子の育成」を研究主題として、本研究に取り組んだ。

2 目指す子ども像

研究主題に基づき、目指す子ども像を次のように設定した。なお、本実践における「深く考える」とは、事象がもつさまざまな側面（多面的）、事象を見ている立場と角度（多角的）を考えることと定義することにした。

- ・自ら問題意識をもって追究し、関わり合いを通して、深く考える子

3 手だて

〈手だて①〉子どもたちが興味関心をもち、思考の流れに沿って考えられる資料の提示

単元導入時の教材との出会いの場で、子どもたちが行った買い物調べの結果を提示する。結果から、利用する人が多いことに気付き、スーパーマーケット（以降：スーパー）に興味関心をもつだろう。また、利用する人が多いことに疑問をもち、「どうしてお客さんがたくさん来るのかヒミツをたくさん調べたい」と自ら問題意識をもつことができると考える。

〈手だて②〉子どもたち同士で話し合う場の設定

本研究では積極的に子どもたち同士で話し合う場を設定し、他者のさまざまな意見に触れる機会を設ける。子どもたちは、店内見取り図から読み取ったことやスーパーの見学で調べたことを出し合い、自分の考えを見直したり広げたりすることで、販売の仕事を多面的・多角的に考えることができるようになると思う。

〈手だて③〉販売の仕事に携わる人から学ぶ場の設定

スーパーへ見学に行き、店内を実際に見たり店員から話を聞いたりする場を設定する。店員から直接話を聞くことで、子どもたちは、店の作りやお客さんに対する気配り、サービスなど販売の仕事を多面的に考えることができると考える。

〈手だて④〉構造的な板書と活用

スーパーの見学で見つけたことをジャンルごとに分類したり、意見がつながる所を線でつなげたりして構造的な板書にする。これにより、子どもたちは販売の仕事で行われている「品物」「店の作り」「サービス」のそれぞれの側面が「お客さんのため」につながっていることに気付き、新たな視点を得て多角的に考えることができると考える。さらに、前時の板書や付箋を活用し、課題に対する考えの変化を明確にする。これにより、「お客さんのためはお店のためにつながる」ことに気付き、多角的に考えることができるようになると思う。

4 抽出児童の実態と単元終了後に期待する姿

抽出児童Aについて以下のように考える【資料2】。

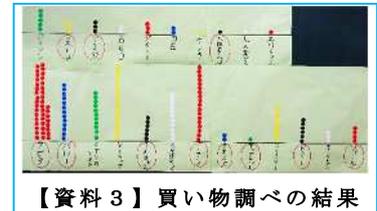
抽出児童Aの単元前の姿	【資料2】抽出児童について
○資料から情報を読み取り、自分の考えをもつことができる。	▲教師の提示した事象や資料に対して受け身の姿であり、自ら学ぼうとする姿にまで達していない。
	
単元終了後に期待する姿	
☆自ら問題意識をもって追究し、関わり合いを通して、深く考えられるようになってほしい。	

5 実践と考察

(1) スーパーに興味関心をもち、問題意識をもった児童A（手だて①の検証）

第1時、学級全体に「普段、どんなことを考えながら買い物をしているかな」と問いかけると、「値段」「賞味期限」「量」などが子どもたちから挙げられた。意見が出し尽くしたところで教師が「みんなのお家の人、どんなことを考えているかな」と問いかけた。子どもたちは、予想を口々につぶやいたが明確な答えが出なかった。教師が、買い物調べをすることをもちかけると、児童Aは、「やりたい」と答え、調べることに決まった。

第2時は、買い物調べの結果を発表した。「どんなことを考えているか」については、「値段」「入っている量」などに加えて、「どこで作られたか」「使われている物」などの意見が出た。結果を知った児童Aは、予想以上に多くのことを考えて買い物をしていることに驚いている様子だった。「どこで買い物をして



いるか」の発表では、お店ごとにシールを貼りながらグラフを作った【資料3】。児童Aは、学区のスーパーや薬局にシールを貼った。教師が「グラフを見て、どんなことが分かるかな」と問いかけると、児童Aは「スーパーがたくさんある」と発言した。児童Aの発言を取り上げ、スーパーに丸を付けると、23店舗中11店舗もスーパーがあった。多くの家庭がスーパーを利用していることを共有できたところで、教師が「みんなは今、どんなことを知りたいかな」と問いかけた。児童Aは、「どうしてスーパーに行く人が多いのか知りたい」と発言した。こうして、「スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるヒミツを調べたい」という学習問題をもった。

買い物調べをしてみると、こんなにスーパーにたくさん人が行っていることにびっくりしました。多分、家から近いとべんりなのと、たくさん商品があると〇〇さんが言っていたようにいろいろな物が買えるから人があつまると思います。どうしてお客さんがたくさん来るのかヒミツをたくさ

児童Aは第2時の振り返りを【資料4】のように記述した。「こんなにスーパーにたくさん人が行っていることに

びっくり」から、スーパーを多くの人利用している事実を知り、驚いている様子が分かる。「家から近いとべんり」「いろいろな物が買えるから」からは、スーパーの利用者数が多い理由を予想していることが分かる。さらに、「どうしてお客さんがたくさん来るのかヒミツをたくさん調べたい」からは、問題意識をもっていることが分かる。

単元導入時のスーパーとの出会いの場で、子どもたちが行った買い物調べの結果を提示したことは、児童Aがスーパーに興味関心をもち、利用することが多いことに疑問をもつことにつながった。また、「どうしてお客さんがたくさん来るのかヒミツをたくさん調べたい」と問題意識をもつことができた。以上のことから、手だて①は有効であったと言える。

(2) 店の作りという新たな側面に気付いた児童A（手だて②の検証）

第3時、スーパーの店内の写真を提示した。子どもたちは、写真から細かく読み取り、ヒミツにつながることを話し合った。しかし、児童Aは、第3時の振り返りに「しゃ真から見ても全体は見えていないので全体から見てヒミツを調べたいです」と記述した。

第4時の冒頭、第3時の児童Aの振り返りを共有したところ、学級全体が同じ思いをもっていたため、教師は、スーパーの全体の様子分かる店内見取り図を配付した。そして、

たくさんのお客さんが集まるヒミツにつながることに丸を付けさせた。児童Aは、レジがたくさん並んでいることや、花を販売している所などに丸を付けた。

その後、読み取ったことを基に、子ども同士でスーパーのヒミツについて話し合う場を設定した【資料5】。児童Aは、「たくさんレジがあるから、お客さんがたくさん来ても早く終わる」と、レジの数に注目して発言をした。C17は、食べ合わせの良い物が近くに置いていることを発言し、C18、20と店の作りに関わる意見が集中した。児童Aは、友達の意見を聞き入っていた。

児童Aは、第4時の振り返りを【資料6】のように記述した。「作りをはあくしておけば、ぜったいにヒミツに近づけると思う」からは、C18など店の作りについての意見を取り入れ、店の作りがたくさんのお客さんが集まるスーパーのヒミツにつながると考えていることが分かる。また、「ぜったいに」「知りたい」からは、店の作りという側面に自信をもっている様子が分かる。

子どもたち同士で、店内見取り図から読み取ったことを基に話し合ったことは、レジの数や売っている物に注目していた児童Aにとって、店の作りという新たな側面に気付くことにつながった。これらのことから、手だて②は有効であったと言える。

(3) スーパーの見学で、サービスの側面から考えた児童A (手だて③の検証)

第5・6時、学区のスーパーへ見学に行った。店の作り注目していた児童Aは、すぐに魚と肉の売り場に向かった。これは、第4時のC20「お魚や肉コーナーは店の奥にある」の考えを確かめようと考えていたためだった。魚と肉の売り場が店の奥にあることを確かめると、「どうして魚と肉のコーナーはお店の一番奥にあるんですか」と店員に質問した【資料7】。店員からは、肉と魚が人気の商品で店の奥に置くことで、売り場に行く途中で、他の商品を買ってもらえるようにしていることを教えてもらった。児童Aは店員の回答から、自身の母親の買い物の様子を思い浮かべ、納得している様子だった。

その後も児童Aは、店の作りについて調べた。商品を袋詰めする場所では、お客さんがビニル袋を無料で使っている様子を見つけた。児童Aは「小さい袋はどうして自由に使えるんですか」と店員に質問をした【資料8】。店員から、サービスという新たな側面を聞いた児童Aは、他にサービスがないか店内を調べるようにした。

児童Aは第5・6時の振り返りを【資料9】のように記述した。「やっぱり」からは、児童Aが見学前に注目していた店の作りを見学で見たり、店員に聞いたりして確認できたことに喜び、店の作りがヒミツにつながると確信して、考えを深めていることが分かる。さらに、「これだと思った」からは、店員から小さい袋をサービスで使えるようにしていることを聞いたことで、お客さんへの気配りやサービスという新たな側面を知り、考えていることが分かる。

児童A たくさんレジがあるから、お客さんがたくさん来ても早く終わる。
 C17 牛乳とシリアルは、シリアルと牛乳は合わせたらおいしいから近くに
 C18 お米のコーナーは、買い物しやすいようにレジの近くに
 T⑤ どうしてお米とレジは近いの？
 C19 レジから遠い所から買い物をする人が多いから、お米やビールはレジの近くにすると、お客さんは重い物を持ってこなくていいから。
 C20 お魚や肉のコーナーは店の奥にあるのか

わたしは、味見コーナーで味のかくにんがができるから、買ってくれる人が多くなると思いました。スーパーの見学で調べたいことは、店の作りです。作りをはあくしておけば、ぜったいにヒミツに近づけると思うし、ぎもんに思って知りたいからです。

児童A どうして魚と肉のコーナーはお店の一番奥にあるんですか。
 店員① お肉と魚は、お店の中でも人気のある商品なので、お店の奥にしているんだよ。奥に人気のある商品を集めて、お店の手前はあまり人気のない商品を置いておくことで、お肉や魚を買いに行く途中で、他の商品も買ってもらえるようにしているんだ。
 C2 お肉と魚って人気があるんですか。
 店員② みんなのお家の人もスーパーに行ったら、お肉と魚のどちらかは必ず買わないかな。

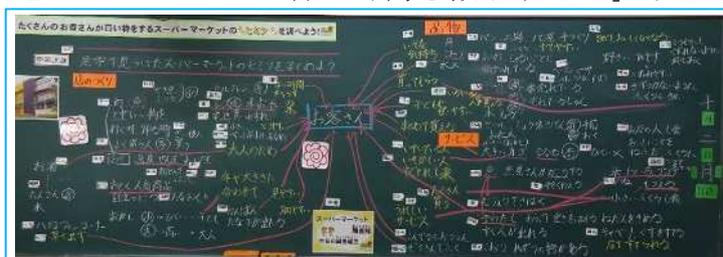
児童A この小さい袋はどうして自由に使えるんですか。
 店員④ これは、袋を忘れたお客さんや少しだけ買い物をしたお客さんが楽に使ってもらえるように、サービスで置いているんだよ。

わたしは、見学に行くと、やっぱり店の作りヒミツがありました。重い物はレジの近くにあって、なにかとなにかが合う物は近くにおいてあるから、いっしょに買えるし、小さい子が取りやすいようにしょう品がたなの下にありました。肉と魚がおくにあるのは、向かう時にいらんしょう品を見てもらえるから、買ってもらおうかくりつが上がると分かりました。それに、見学でこれだと思ったヒミツはサービスだと思います。理由は、米のコーナーに行って見てみたら、1ふくら買うとラップが1こもらえるし、お会計

スーパーに見学に行き、店内を実際に見たり店員から話を聞いたりする場を設定したことは、児童Aにとって、店の作りについての問題を解決することにつながった。さらに、疑問に感じたことを店員に直接話を聞いたことで、お客さんに対する気配りやサービスという販売の仕事をより多面的に考えることができた。以上のことから、手だて③は有効であったと言える。

(4) 見学を振り返り、販売の仕事を多面的・多角的に考えた児童A (手だて④の検証)

第7時、スーパーの見学を基に「スーパーにたくさんのお客さんが集まるヒミツ」について学級全体で考えた。話し合いでは、見学で見たことや店員から聞いたことを根拠に発言した。児童Aは、「トウモロコシが、崩れないように綺麗に丸く置いていた」と品物の側面から発言した。また、「お米を買うとラップを1つサービスでもらえる」と新たに気付いたサービスの側面から発言をした。教師は、子どもたちから出た意見を「店のつくり」「品物」「サービス」の3つに分類をしながら板書した。また、意見の関連性がある場合は、線でつないだ。3つのジャンルに分類をしてまとめたものの、多くの意見が「お客さん」につながっていることに、子どもたちが気付き、「どれもお客さんにつながっている」とつぶやいた。教師はこのつぶやきを取り上げ、「他にもお客さんにつながっているものはないかな」と問いかけた。C24の「お酒と炭酸が近いと一緒買える」C25「かごを斜めに置くとお客さんがすぐ取れて、楽ができる」C26「セルフレジは待つ時間を減らすため」などこれまでに与えられた意見を見直し、お客さんにつながる内容を発言した。教師はその意見を受けて、さらに線でつなぐことで、【資料10】の板書が完成した。しかし、児童Aはお客さんに焦点化した話し合いを聞きながら、少し考え込んでいる様子だった。



【資料10】 見学で見聞きしたことをまとめた板書

児童Aは第7時の振り返りを【資料11】のように記述した。「〇〇さんとC24の意見を聞いて～思いました」からは、〇〇さんとC24の意見を聞き、【資料9】の記述にあるスーパーの見学で見つけたレジの近くに重い物があることが、お客さんのためにつながっていると考えることが分かる。また、「スーパーはどれもお客さんのことにしかつながらないので少しぎもんに思いました」からは、スーパーで見つけたヒミツが「お客さんのため」につながっていると理解したことが分かる。一方で、「お店のこととかはたらく人のためにならないので、少しふしぎな気持ちになりました」からは、ヒミツが店側や働く人につながっていないことに疑問をもっている様子が分かる。

わたしは、〇〇さんとC24の意見を聞いて、お客さんは重たい物を持っていると大変だから、レジが近いから楽ということが分かって、これもヒミツだと思いました。スーパーはどれもお客さんのことにしかつながらないので少しぎもんに思いました。ほかに、お店のこととかはたらく人のためにならないので、少しふしぎ

スーパーの見学で見つけたことをジャンルごとに板書したり、意見がつながる所を線でつなげたりと構造的な板書にしたことで、児童Aの思考を焦点化するきっかけとなり、「品物」「店の作り」「サービス」の側面が「お客さん」の立場につながっていることに気付くことができた。また、「お客さん」の立場に気付いたことで、多角的に考え、新たな疑問をもつことができた。これらのことから、手だて④は有効であったと言える。

(5) お客さんの立場に加えて、お店の立場からも考えた児童A (手だて②④の検証)

第8時の冒頭、「お客さんのためにしていると思うことに付箋を貼ってみよう」と投げかけた。子どもたちは、前時の内容を想起しながら、お客さんの立場から発言した。教師は、子どもたちの意見を、拡大印刷した【資料10】の上に付箋で貼り、【次頁資料12】の板書を完成させた。感想を聞くと「どれもお客さんのためなんだ」「こんなにしてくれているとお客さんは嬉しいよね」とお客さんの願いに応えられるように取り組んでいることが明確

になっている様子だった。しかし、児童Aはやはり違和感を抱いている様子だった。

そこで、前時の児童Aの振り返り【資料 11】を紹介した。子どもたちは、驚いたり納得したりといった反応だった。その様子を見て教師は、「どうして魚を捌くサービスは無料なのか」の疑問に答えた店員の話を紹介した。【資料 13】。児童Aに店員の話聞いた感想を聞くと、「お店のことも考えているんだ」と安心した様子だった。また、子どもたちから「他にもあるのかな」とつぶやきが聞こえたため、教師は「お店のためにしていることはないか考えてみよう」と投げかけた。子どもたちからは、「お得や人気商品を目立つ所に置くことで、お店も売り上げが多くなる」「レジの近くに電池を置くと、お店はついでに買ってもらえる」などの意見が出た。児童Aは、「トウモロコシを崩れないように綺麗に並べると、美味しそうに見えるから、お店の人は買ってもらえる」と店側の立場から発言した。教師は子どもたちの意見を付箋にまとめて、【資料 10】の上に貼り、【資料 14】の板書を完成させた。

意見が出尽くした所で、教師は「2枚(【資料 12・14】)を見比べて、気付くことはないかな」と問いかけた【資料 15】。C 40 は、「お客さんのためとお店のためはつながっている」と付箋が同じ箇所貼られていることに気付き、それぞれの取組は、お客さんとお店の両方のためになっているのではないかと考えた。C 40 の発言を聞いて、C 41、42 は、お客さんとお店のための取組が関係している点について、具体的に考えたことを発言した。そして、児童A③で、「C 40 の意見と同じだけど具体的に考えて、トウモロコシを丸く置くだったら、お客さんのためにも、お店のためにもつながる」とC 40 をより詳しく説明するために、自分が見学の際に見つけたトウモロコシを取り上げて発言をした。さらに教師の切り返しに、児童Aはお客さんの立場で、「綺麗だとおいしそうに見えるからお客さんは買っちゃう」と、お店の立場で「綺麗に並べているとおいしそうに見えるからお客さんは買ってくれるからお店は儲かる」と発言をした。

児童Aは第8時の振り返りを【資料 16】のように記述した。「C 40 の意見を聞いて、お客さんのためはお店のためにつながるということが分かりました」からは、C 40 の意見を聞き、スーパーの取組がお客さんとお店のためにそれぞれ関連付いていることを理解している様子が分か



【資料 12】お客さん側の立場から考えた板書

- お客さんが魚を買いやすくするため
臭いやごみを理由に、買いたくないお客さんもいる。無料で頼まれた形や大きさに切ることで、魚をより買いやすくなるようにしている。
- お店の売り上げを高めるため
売り上げを高める必要がある。店で魚を捌いた後に出る、魚の頭やヒレのまわりなども、まとめてパックに入れて販売している。

【資料 13】魚売り場の店員の話の内容



【資料 14】店側の立場から考えた板書

- T⑩ 2枚を見比べて、気付くことはないかな。
- C 40 お客さんのためにも付箋が貼ってある所と、お店のためにも付箋が貼ってある所があるから、お客さんのためとお店のためはつながっている。
- C 41 キャベツのくずを捨てられると、お客さんは嬉しくて買ってもらえるから楽だし、お店は楽だと買ってもらえるから儲かるから、お客さんのためとお店のためはC 40 が言ったようにつながっている。
- C 42 セルフレジが多いとかは、お客さんのためにも、お店のためにもなっているから、一つのこと、どっちのためにもなっているから、どっちも嬉しくなるし、いい。
- 児童A③ C 40 の意見と同じだけど具体的に考えて、トウモロコシを丸く置くだったら、お客さんのためにも、お店のためにもつながるし、C 4 2 が言ったように、セルフレジもお客さんのためにも、お店のためにもつながっている。
- T⑪ トウモロコシを丸く置くことは、お客さんにとって何がいの。
- 児童A④ 崩れないように綺麗に綺麗に並んでいるから、綺麗だとおいしそうに見えるからお客さんは買っちゃうと思う。
- T⑫ お店にとっては？
- 児童A⑤ 崩れないように並べるのは大変だと思うけど、綺麗に並べているとおいしそうに見えるからお

わたしは、C 40 の意見を聞いて、お客さんのためはお店のためにつながるということが分かりました。考えたことは、お店のためは店の作りが一番多いと思って、たぶん品物やサービスよりもたくさんしているからだと思いました。わたしは、前はお客さんのためだけにダメだと思っていたけど、みんなと話してお店のことやほかた人のことも考えているから、これもスーパーマケ

る。また、「前はお客さんのためだけはダメだと思っていたけど、みんなと話してお店のことやはたらく人のことも考えている」と記述した。ここから、子どもたち同士で話し合ったことで、お客さんのためだけと疑問に思っていた児童Aが、店のことや働く人のことも考えていることに気付き、多角的に考えられるようになったことで考えを変えている様子が伺える。そして、「これもスーパーマーケットのヒミツだ」からは、店側の立場から考えたことで、スーパーのヒミツを新たに見つけたことが分かる。

子どもたちが販売の仕事について、多角的に考えられるようにするために、子どもたち同士で話し合う場を設定したことは、児童Aにとって、お客さんと店側の両方の立場で考え、多角的に販売の仕事をつまみこむことにつながった。また、前時の板書や付箋を活用し、課題に対する考えの変化を明確化したことで、児童Aは「お客さんのためはお店のためにつながる」ことに気付き、店側の立場から多角的に考えることができた。これらのことから、手だて②④は有効であったと言える。

(6) 販売の仕事を多面的・多角的に捉え、考えた児童A (単元後の姿)

児童Aは単元の振り返り【資料17】のように記述した。「いろいろな商品が売っていたり～少し楽になっている」の記述から、スーパーについてお客さんとお店のそれぞれの立場から、品物やサービスの側面から考えたことで、児童Aが、自分たちの生活につなげ、多角的・多面的にも考えていると言える。さらに、「みんなで調べていないスーパーのヒミツを調べたい」からは、今回取り上げたスーパーだけでなく、他のスーパーにはどのようなヒミツがあるのか興味関心をもち、新たに自ら問題意識をもつまでに至ったと言える。

スーパーマーケットは、お客さんだけでなくお店の人のこともやっていてびっくりしたし、工夫もたくさんあってスーパーマーケットは生活に役立つと思いました。そのわけは、いろいろな商品が売っていたり、サービスがいっぱいあるからお客さんにとってありがたいし、お店の人も手伝ってくれたり、お客さんがいろいろな物を買ってくれるからもうかって、少し楽になっているからです。もう一つあって、わたしはみんなで調べていないスーパーのヒミツも調べたいです。

6 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 単元導入時の教材との出会いの場で、子どもたちが行った買い物調べの結果を提示したことで、子どもたちは、スーパーに興味関心をもつことができた。また、利用する人が多いことに疑問を抱き、「どうしてお客さんがたくさん来るのかヒミツをたくさん調べたい」と自ら問題意識をもつことができた。(手だて①)
- 子どもたち同士で話し合う場を設定したことで、子どもたちは、店内見取り図から読み取ったことやスーパーの見学で調べたことを出し合い、自分の考えを見直したり広げたりし、販売の仕事を多面的・多角的に考えることができた。(手だて②)
- スーパーに見学に行き、店内を実際に見たり店員から話を聞いたりする場を設定したことで、店員から直接話を聞き、子どもたちは、店の作りやお客さんに対する気配り、サービスなど販売の仕事を多面的に考えることができた。(手だて③)
- スーパーの見学で見つけたことをジャンルごとに分類したり、意見がつながる所を線でつなげたりして構造的な板書にしたことで、子どもたちは販売の仕事で行われている「品物」「店の作り」「サービス」が「お客さんのため」につながっていることに気付くことができた。また、前時の板書や付箋を活用し、課題に対する考えの変化を明確にしたことで、「お客さんのためはお店のためにつながる」ことに気付き、多角的に考えることができた。(手だて④)

(2) 今後の課題

本研究では、販売の仕事を多面的・多角的に捉えるために、手だてを講じながら実践に取り組んだ。しかし社会的事象は複雑であるため、より多面的・多角的に考えるためには、他のスーパーやコンビニエンスストア、専門店を比較して考えるといった活動等を取り入れ、子どもたちの捉えを広げる実践を行うとよかったと考える。さらに、子どもたちが自分のくらしにつなげ、自ら学ぼうとすることができる実践方法を今後も模索していきたい。